

ICMI Study24 国際会議

募金趣意書

ICMI Study24 実行委員会

ICMI Study24 国際会議

ICMI (International Commission on Mathematics Instruction : 数学教育国際委員会) は, IMU (International Mathematics Union : 国際数学連合) に常置された委員会である。

ICMI は, 数年に 1 度, ICMI Study というプロジェクト型研究を実施している。この ICMI Study では, ICMI が設定した現代の数学教育に関する重要な議題について, 世界各国の先導的な研究者たちによって構成された国際委員会が中心となり, 議論が行われている。

ICMI Study は, 次の流れで進められる。

1. ICMI の実行委員会において研究テーマを決定する。
2. 研究代表 (2 名) を含む, IPC (International Program Committee : 国際委員会) (約 10 名) を構成する。
3. IPC によって討議資料 (Discussion Document) が作成され, 研究会議 (Study Conference) の案内と投稿論文の申込が告知される。
4. 投稿された論文は IPC メンバーによって査読が行われる。
5. 研究会議が開催される。論文発表が受理された人及び招待者のみが参加できるため, 参加人数は例年 100 人程度である。ここでは, 投稿論文と招待講演をまとめた会議要項 (Conference Proceedings) が発行される。
6. 研究会議の内容に基づいて, ICMI Study Volume が編集される。編集された書籍は, New ICMI Study Series として, Springer 社から刊行される。

前回の ICMI Study 23 は, 「整数に関する初等数学の研究 (Primary Mathematics Study on Whole Numbers)」というテーマで実施された。研究会議は, 2015 年 6 月 3 日-7 日に, 中国のマカオ大学で開催され, 22 カ国 91 名が参加した。

24 回目の今回は, 「学校数学のカリキュラム改革: 挑戦, 変革, 新たな機会」というテーマで研究会議が開催される。日本は世界の中でも, 全国規模の国定カリキュラムを早い時期からもつ国であり, 国際学力調査で日本の生徒が好成績を収め, 日本のカリキュラムは世界各国から注目されるようになった。これを受けて, 諸外国においても全国規模のカリキュラムが注目され, 整備されてきている。そのため, 世界各国から, 数学教育に関する研究者が活発に議論することを期待し, ご参加を期待する次第である。



ICMI Study24 実行委員会

実行委員長	清水 美憲
事務局長	蒔苗 直道

会議の概要

1. 会議の名称とテーマ

- 1) 会議の名称
ICMI Study24 国際会議
- 2) 会議のテーマ
「学校数学のカリキュラム改革：挑戦，変革，新たな機会」

2. 主催・併催機関などの名称

- 1) 主催
ICMI Study24 実行委員会
- 2) 併催
筑波大学
- 3) 協力
独立行政法人国際観光振興機構
- 4) 協賛
つくば観光コンベンション協会，公益社団法人日本数学教育学会

3. 開催期間

2018年11月26日（月）－11月30日（金）（本会議5日間）

4. 開催場所

つくば国際会議場
〒305-0032 茨城県つくば市竹園2丁目20番3号
電話 029-861-0001
ファックス 029-861-1209

5. 主催責任者

ICMI Study24 実行委員会
実行委員長 清水 美憲（筑波大学人間系教授）
事務局長 蒔苗 直道（筑波大学人間系准教授）
事務局 〒305-8572
茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学人間系学系棟数学教育学研究室
電話：029(853)4693 ファックス：029(853)4693
E-mail: hanazono@human.tsukuba.ac.jp

6. 日本開催の経緯

ICMI Study は、これまでに 23 回開催され、現代の数学教育における重要なテーマが数多く議論されてきた。ICMI Study は、イギリス、ブラジルといったヨーロッパや南米などの世界各国で開催されているものの、いまだ日本での開催がされていないことから、かねてより日本での開催が強く要請されていた。

日本では、平成 29 年に新学習指導要領が告示され、これまでの日本の数学教育を革新する資質・能力論をベースとしたカリキュラムへの取り組みがなされて

いる。この学習指導要領の改訂の時期をむかえた昨今では、国内でカリキュラムへの関心が高まるとともに、諸外国のカリキュラムへの強い関心が寄せられている。諸外国からは、国際調査で日本の生徒が好成績を収めて以降、日本のカリキュラムが国際的に注目されており、各国で全国規模カリキュラムの整備が行われつつある。

2016年7月にドイツのハンブルクで開催された第13回数学教育世界会議(ICME13)では、ICMIの会長より日本での開催が強く要望され、今回のICMI Study 24の日本開催が決定した。日本での開催は、海外の研究者との研究交流によって情報交換を行うとともに、日本の数学教育を世界に発信するよい機会となる。以上の経緯より、今回、ICMI Study 24が日本で開催されることになった。

なお、この会議の開催状況は、以下のとおりである。

開催年	開催地	参加国数	参加者数	日本人参加者
2009年(第19回)	台北(台湾)	26	114	-
2010年(第20回)	リスボン(ポルトガル)	-	-	-
2011年(第21回)	サンパウロ(ブラジル)	27	91	-
2013年(第22回)	オックスフォード(イギリス)	22	82	3
2015年(第23回)	広東省珠海市(中国)	22	91	-

7. 日本開催の目的と意義

近年の数学教育研究界では、国際的に通用する数学という教科の強みを生かし、カリキュラムや授業の国際比較が積極的に行われている。日本の数学教育研究界においても、国内にとどまらずに国際的に通用する研究を展開することを目指し、諸外国の研究者らと積極的に共同研究が行われるようになってきている。

ICMI Studyは、数学教育に関する国際的な組織である数学教育国際委員会(ICMI)における中核的な研究活動の1つである。本研究活動における研究会議(Study Conference)では、世界各国の著名な研究者たちが一堂に会し、設定された研究テーマについて、論文発表と活発な議論が行われる。

今回は、「学校数学のカリキュラム改革」というテーマで研究会議が開催されるが、国内的には新学習指導要領が告示された直後という機会に、国際的にも全国規模カリキュラムの改定や整備が行われつつある。国際学力調査のOECD/PISAによって、学校教育におけるキーコンピテンシーの育成とそのカリキュラムでの具体化が議論される現在、この会議が日本で開催される意義は大きい。

本会議の目的は、世界各国の著名な研究者らたちによる論文発表と活発な議論を通して、将来の数学教育カリキュラムの方向性に関する改革指針を得ることである。本会議を日本で開催することには、日本のカリキュラムの持つ特徴を世界に発信するという意義だけでなく、日本のカリキュラム自体を諸外国のカリキュラムと比較検討することによって、従来はあまり顕在化されなかった、カリキュラムの長所や短所が明らかになるという意義がある。

8. 開催計画の概要

1) 会議日程

11月26日(月)	午前	開会式
		プレナリートーク1
	午後	ワーキンググループ1 リサーチトピックグループ1
11月27日(火)	午前	ワーキンググループ2
	午後	ワーキンググループ3 リサーチトピックグループ2

11月28日(水)	午前	ワーキンググループ4 プレナリートーク2
	午後	学校訪問
	夜	カンファレンスディナー
11月29日(木)	午前	ワーキンググループ5 プレナリートーク3
	午後	ワーキンググループ6 カンファレンスプロシーディング・パブリケーション1
11月30日(金)	午前	カンファレンスプロシーディング・パブリケーション2 閉会式

2) 主要トピックス

プレナリーセッションテーマ

国際化とグローバル化におけるカリキュラム改革
OECD/PISAのキーコンピテンシーと数学教育カリキュラム
学のカリキュラム改革の理論的枠組み

シンポジウムテーマ

学校数学のカリキュラム改革の世界的動向と課題

3) 参加予定者

国内	50名
海外	70名
合計	120名

4) 参加予定国 25ヶ国・地域

日本、アメリカ、台湾、インド、シンガポール、マレーシア、インドネシア、デンマーク、フランス、イギリス、ドイツ、韓国、カナダ、イタリア、スペイン、メキシコ、ロシア、中国、ブラジル、イラン、オーストラリア、ニュージーランド、イスラエル、オランダ、南アフリカ

5) 会議使用言語

英語

9. 寄附金を必要とする理由

ICMI Study24は海外から70名、国内50名、計120名の参加が予定され、準備運営等に関する総経費は6,800,000円が見込まれています。これらの諸経費は、本来参加登録費等でまかなうことが建て前ではありますが、参加者の個人負担額を軽減させ、世界各国から多数の研究者が本会議に参加しやすくし、本会議によって得られた算数数学教育に関する研究結果を各国に発信しやすくするために、総額6,800,000円から、参加費等自己負担額3,900,000円、補助金等300,000円、広告費100,000円を除く不足額、2,500,000円を諸企業及び諸団体からのご援助に頼らざるを得ないのが現状です。従いまして、下記の費用を会議に協賛する関係企業等からの寄附金にて充当したいと存じます。

10. 収支予算（案）

単位：円

収支区分	金額
（収入）	
1. 自己負担金（参加登録費等）	3,900,000
2. 諸収入等（広告費等）	100,000
3. 補助金／助成金等	300,000
4. 寄附金等	2,500,000
収入合計	6,800,000
（支出）	
1. 会議準備費	1,230,000
2. 会議運営費	5,150,000
3. 募金経費	270,000
4. 事後処理費	150,000
支出合計	6,800,000

11. 寄附金募集要項

(1) 募金の名称

ICMI Study24 国際会議寄附金

(2) 募金の目標額

2,500,000 円（総額 6,800,000 円の内）

(3) 募金期間

2018 年（平成 30 年）○月○日（○）～2018 年（平成 30 年）11 月 22 日（木）

（注：会議開催日前の銀行営業日まで）

(4) 寄附金の使途

ICMI Study24 国際会議の準備並びに運営に関する費用に充当します。

(5) 寄附金申込先

独立行政法人国際観光振興機構コンベンション誘致部交付金担当

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-1 細井ビル

電話：03-6691-4852 ファックス：03-6856-1330

(6) 寄附金振込方法

別紙のフローチャート通りとなります。

別紙申込書を国際観光振興機構にお送りください。

寄附金申込書を受領し確認次第、国際観光振興機構より寄附金申込受理書を送付いたします。寄附金申込書受理書を受領後、指定口座番号にお振込ください。

(7) 税法上の扱い

この寄附金は、特定公益増進法人である独立行政法人国際観光振興機構への寄附金として、税法上の一般寄附金とは別途に損金算入等の優遇措置が講ぜられます。